

取り組み報告（事例紹介）

社会福祉法人西ノ島福祉会
養護老人ホームみゆき荘

ICT 導入に向けての準備

事業所概

- ・法人名-事業所名：社会福祉法人西ノ島福祉会 養護老人ホームみゆき荘
- ・地域：隠岐郡西ノ島町
- ・介護サービスの種類：養護老人ホーム
- ・職員数：51 人
- ・併設サービス：特定施設入居者生活介護（外部サービス利用型特定施設）通所介護事業・短期入所生活介護・訪問介護事業
- ・ICT・介護ロボット導入実績（支援開始前の時点）：介護請求記録ソフト

プロジェクト体制

役職		所属	プロジェクト上の役割
1	施設長	養護老人ホームみゆき荘	統括責任者
2	生活相談課長	養護老人ホームみゆき荘	現場リーダー
3	主任生活相談員	みゆき荘デイサービスセンター	デイリーダー

■生産性向上委員会の有無…無し 今後の体制【今回のプロジェクト体制を継続】

取り組みの目的

事業参加の理由…人手不足が進む中で、人材を確保するにも限界があり、かけられるコストもわずかな物しかない。今後は業務の効率化を図り、少ない人員で現在の業務をこなしていくしか方法はなく島根県が行っている島根県介護ロボット等導入支援事業費補助金を活用しながら職場環境を整えたいと考えていた。

そんな折、島根県老人福祉施設協議会より島根県が介護テクノロジー等導入支援専門家派遣モデル事業と言うものを行い、県内5事業所を選択し支援して下さる話を聞き、手を上げさせていただいた。

目的達成に向けたテーマと取り組み

	テーマ	取り組み内容
1	現在の事業所の状況 確認作業	事業所の状況を説明し、こういった解決策があるかを簡単に教わった。
2	前回の聞き取り後に講師が気になった部分の質問等	前回の確認を受け、世代間、職種間での連携の不味さがあるのではないかと。リーダー的役割の職員に、聞き取りや指導すると変わってくると思うので現地で行いたい。
3	デライトコンサルティング㈱の持ち味カードを用いて人事考課等に活用する。	持ち味カードを担当者で使ってみてこういったメリットがあるかを確認した。次回予定しているリーダー向けの研修に使うことを決定しリーダー向け研修の日時の調整に入った。
4	持ち味カードを使い施設長、課長、係長、主任に向け講義を行う。	人数分の持ち味カードをそれぞれが持ち web で講義を受けた。自分や他人の特性など改めて深く考えるきっかけとなった。
5	持ち味カードを使い目標設定していくには、どうすれば良いか？	まず、ターゲットを決めどういうやり方なら、楽しみながら自発的な目標が作れるか。第一級職員（いわゆる平社員）には相互に持ち味カードを使い分析しながら目標を作ってみる。

（１）専門家との取り組み

時期（年月日）	取り組み内容	取り組みのポイント
令和 6 年 9 月 24 日	事業所の状況説明、それに対する対応策の提示	事業所での問題点を講師が把握する為の聞き取り
令和 6 年 11 月 12 日	前回指導いただいた個所の深堀。リーダー的役割の職員の指導が必要。	事業所問題点の改善法。来島時に説明したいツールなどの説明。
令和 6 年 11 月 29 日	リーダー的職員に対する指導法の決定。持ち味カードを使う事の提案。	具体的に焦点を絞り、どう指導していくかの決定。
令和 6 年 12 月 8 日	持ち味カードを使っの自分や他人の特性を考える。どう理解していくか。	自分や他者の理解。
令和 7 年 2 月 3 日	今までのまとめ：持ち味カードを使い相互に目標を設定してみることにした。	自分一人だけでなく同僚も交えてより良い目標を設定する。

（２）事業所の取り組みとその結果

時期（年月日）	取り組み内容
令和 6 年 12 月 22 日	業者への記録の仕方などを説明。タブレットで使用する様式指示。
令和 6 年 12 月 23 日	業者を呼んでの wi-fi 設置工事説明、インカムの仕様確認。
令和 7 年 2 月 13 日	インカム業者からの使用法説明
令和 7 年 3 月 3 日	タブレット業者からの操作法説明
令和 7 年 3 月 9 日	持ち味カードを使って目標設定を行う。

	効果検証（定量・定性）	取り組み前と後の変化	測定方法	頻度
1	勤務中の職員の連絡手段としてインカムを導入し、施設内職員との連絡を容易にした。	職員を探して動くことがなくなり、効率的になっている。	万歩計などで歩数の確認	
2	タブレットを使い、記録をこまめに行ったり、隙間時間をうまく使えるようにした。	記録に係る時間	記録時間の計測	
3	講師に教えていただいた、持ち味カードを活用しての職員間の面談	面談の仕方	各職員への満足度の確認	
4	持ち味カードを使い、新しい年度の目標設定をしてもらう。	自分を評価する時間を作り、他人をよく見ることが出来た。	より具体的な目標設定が出来た。	

継続課題

テーマ	内容
第一級職員（いわゆる平社員）と正規職員を目指しているパート職員に目標を立ててもらう。	自己評価として持ち味カードより 15 項目を抜き出し、その項目の中から自分の強みと伸ばしたい、改善したい物を3つ選んでもらう。同様の評価も他者からカードを使い提示してもらい、そう思ったエピソードや考えを聞き、自己と他者からの評価を聞いた上で来期の目標を立ててもらった。

モデル事業所の感想

以前は法人の目標を個人に置き換えたようなありきたりな具体性のない目標だったが、今回立てた物は自分の長所や短所に則した物となった。例として、コミュニケーション・分析力・協調性に課題があると感じている職員が、「緊急時などにも落ち着いて正確な報告を行う。」やリーダーシップ・傾聴力・観察力に課題を感じている職員が「自分自身と他の職員の仕事の進捗状況を正確に把握し、的確な指示（配置）を行う」、「自分自身の精神状態や仕事の進捗状況を利用者や他の職員への対応に影響させない。」など※写真4～6枚目が研修の様子です。この日は施設内電気工事で停電しており、デイサービスが休みだった為、明るく話しやすい環境（こたつ）で研修を行いました。

伴走支援専門家【Terrastory 株式会社 取締役 CHO 寺本直美】

今回の取り組みでは、ICT 導入を通じた業務効率化と職員の意識改革に焦点を当て、施設全体の生産性向上を図る試みが実施されました。「持ち味カード」を活用した目標設定や職員間の理解促進の取り組みは、介護現場におけるチームワークの強化と自己認識の深化に関わったことと推察致します。

1. 成果のポイント

(1) ICT 導入による業務効率化

- ・インカムの導入により、職員間の連絡がスムーズになり、施設内での移動時間が短縮された。
- ・タブレットを活用し、記録業務の効率化を実現。隙間時間の活用が可能になった。

(2) 人材育成とチームワークの強化

- ・「持ち味カード」を活用した自己理解と相互理解の促進により、職員の強みを活かした目標設定が行えた。
- ・「自分と他者の評価」を組み合わせた目標設定により、より実効性のある個人目標の策定が実現。

(3) リーダー層の意識改革

- ・施設長・課長・係長・主任向けに実施した「持ち味カード研修」により、マネジメント層のリーダーシップ向上が図られた。
- ・研修後には、「適切な指示・配置を行う」「落ち着いて正確な報告を行う」など、具体的な行動目標が形成され、職員の主体性向上につながった。

2. 今後の課題

(1) ICT 活用のさらなる定着

- ・新たに導入した ICT ツール（インカム、タブレット）を活用し続けるため、職員の習熟度向上と継続的な運用の仕組み作りが必要。
- ・記録業務のさらなる効率化に向けて、音声入力機能やデータ分析の活用も検討したい。

(2) 継続的な目標設定とフォローアップ

- ・持ち味カードを活用した目標設定が定着するためには、定期的なフォローアップ が不可欠。
- ・「自発的な目標設定」の文化を根付かせるために、リーダーが定期的に面談を実施し、進捗確認を行うことが重要。

(3) 職員間のさらなる連携強化

- ・世代間・職種間での業務連携が引き続き課題として挙げられている。これを解決するために、OJT やペアワーク研修などを導入し、コミュニケーションの強化を図る必要がある。

3. 総括

本事業の取り組みにより、ICT を活用した業務改善や職員の意識改革が確実に進んだ点は一つの大きな成果です。「持ち味カード」を用いた目標設定の手法は、個人の強みを活かし、働きがいを高める有効なアプローチ であり、今後の継続的な運用に期待が持てます。

引き続き、ICT の活用定着やフォローアップを強化しながら、「働きやすさ」と「質の高いケア」の両立を目指した改善活動を進めることで、より良い介護現場の実現が可能となるでしょう。

○活動の様子

